

2 規模と構造

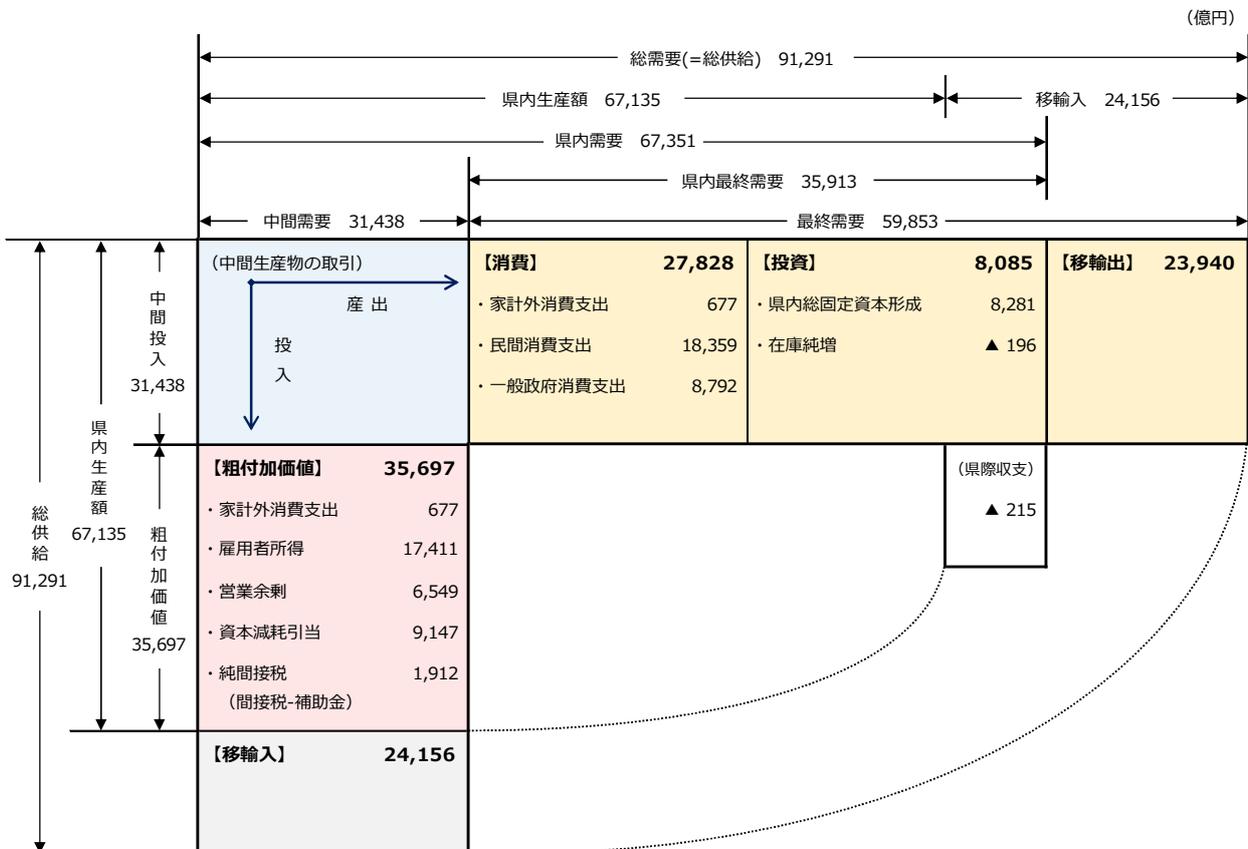
下の図表2は、令和2年における本県の経済規模と循環構造を図式化したものです。

これを供給面である縦方向に見ると、令和2年の和歌山県内で生産された財・サービスの総額である県内生産額は6兆7,135億円となり、さらに県外からの供給にあたる移輸入2兆4,156億円を加えた9兆1,291億円が総供給となります。また、県内生産額のうち、生産活動に必要な原材料や燃料等である中間投入に3兆1,438億円を投入することで、付加価値にあたる労働や資本等で主に構成される粗付加価値3兆5,697億円が生み出されていることが分かります。

次に、需要面である横方向に見ると、県内生産額に移輸入を加えた財・サービス9兆1,291億円が供給（総供給）され、そのうちの6兆7,351億円が県内需要として県内で使用されており、2兆3,940億円が県外に移輸出されています。また、県内需要のうち3兆1,438億円が生産のための原材料等にあたる中間需要として各部門と取引されており、残りの3兆5,913億円が家計消費や投資等となる県内最終需要に回っていることが分かります。

なお、産業連関表では、行列の県内生産額が各分類単位でそれぞれ一致するように作成されていることから、「総供給＝県内生産額＋移輸入＝中間需要＋最終需要＝総需要」と「県内生産額＝中間需要＋最終需要－移輸入＝中間投入＋粗付加価値」の関係が各部門単位で、「中間投入＝中間需要」と「粗付加価値＝最終需要－移輸入」の関係は外生部門の「二面等価」と呼ばれ、対象年に県内で新たに生み出された価値と最終消費された県産品の総額が一致することを意味します。

図表2 R2年県産業連関表から見た和歌山県経済の規模と循環構造



(注) 四捨五入により合計が一致しない場合があります